2017 衆院選 @愛媛

貢献できる働き方を重視

現場から上　女性活躍

女性が輝く日本を、共に創り上げていこうではありませんか―。安倍晋三首相が国会の施政方針演説で「女性活躍」の方針を打ち出したのは2013年2月だ。それから4年半。働く女性が「輝ける」ようになったのだろうか。

□　□

「『働き方改革』などを言われるようになってセカンドキャリアを考えるようになり、自分の成長につながっている」。小学2年生の息子がいる松山市の会社員女性(41)は、自らの働き方をこう振り返る。

女性は出産前、午後10時まで残業するのが当たり前だった。徐々に責任のある仕事を任され、仕事にやりがいを感じていた。

33歳の時に会社で産休・育休を取得。約8カ月後に復職し、短時間勤務で働いた。ただ、仕事量は出産前と変わらず、働き方を見直すことに。メール返信の文面は短くし、会社でしかできないことを会社で優先してやって、家でできることは家に持ち帰って取り組んだ。

子どもが成長すると「小1の壁」があった。保育園は午後7時まで預かってくれたが、小学校の学童保育は終了時間が早い。さらに働き方を見直し、メインで担当する企画以外は携わらないようにした。

子育てしながら働く女性と話す堀田真奈さん（右）＝松山市

育児と両立し成長■「肩書だけ」に不満

短時間勤務で逆に仕事の効率があがり、自己成長につながった、と感じる。「仕事と子育てだけでなく、地域とのつながりも大切にするようになった。仕事以外の楽しみが仕事にもメリットをもたらしてくれる」と話す。残業をしたいという考えはなくなった。

会社の採用活動では、学生から産休・育休の質問を受ける機会が多く、女性の採用も増えた。産休・育休で人手不足の期間は派遣社員を活用するなど、女性が働く環境は整ってきたと感じる。「限りある人生。人生が豊かになる時間の使い方や人との出会いをしたい」

昨年施行された女性活躍推進法では、従業員301人以上の企業に対し、女性登用の数値目標を含む行動計画の策定と届け出を義務化した。県は300人以下の企業や団体でも女性の登用を促そうと、自主目標を設定したシートの提出を求めている。9月末現在で588社から回答があった。

さらに県は15、16年度に、女性の登用・活躍推進で優れた企業・団体を表彰する「えひめの女性が輝く『ひめリット』事業所表彰」を行い、計7社が受賞した。

□　□

女性登用への理解や、女性管理職の比率が高まる中、課題も見えてきた。

12年の就業構造基本調査によると、県内の育児をしている25～44歳女性の有業率は55％で全国平均の52％よりも高い。だが、非正規雇用の女性が多く、県内労働者のうち正規の職員・従業員（役員や自営業などを除く）の割合は、男性の62％に対して女性は38％だ。

「産後に正社員で仕事に戻れるなんて夢のよう。女性活躍と言っているけれど……」。そう口を濁すのは、3人の子どもを持つ松山市の女性(49)だ。

一度は正社員についたが、結婚を機に退職。長女(23)は持病があり、成長するまでは働きたくても働けなかった。その後、パート社員として働いたが、仕事量が多いのに収入は月10万円程度。介護休業すら取らせてもらえず辞めた。今は介護関係で非常勤職員として働く。「非正規雇用の女性は、活躍できないまま終わってしまう」と嘆く。

働く女性らを支援するNPO法人「ワークライフ・コラボ」（松山市）では、女性登用の数値目標ができた影響で、「あるのは肩書だけで決定権はない」という相談が増えた。役職を与えられることにプレッシャーを感じ、退職した女性もいるという。

代表理事の堀田真奈さん(46)は「多くの女性は役職よりも自分がどう貢献できるかを大事にしている」と指摘する。今は長時間労働の是正など、男女問わず働き方が変わりつつある。「現場レベルでの対話の機会を増やし、多様な選択ができる環境づくりが必要です」（堀江麻友）

◇

衆院選の公示まであと5日。争点の現場にいる有権者たちを訪ねた。

気にかかる▽大国主命が少

カルシウムと鉄分を補う
てつ元骨元

【天皇杯得点】
【皇后杯得点】
◇卓球
【成年女子】
▽準決勝
茨城 3-
【皇后杯得点】
◇フェンシング
【成年男子】
▽エペ3回戦
愛媛 2-
▽同準々決勝
愛媛 2-
▽同準決勝
愛媛 2-
三重 2-
▽同3位決定戦
愛媛 2-
【成年女子】
▽サーブル準
愛媛 2-
▽同準決勝
山形 2-
▽同3位決定
新潟 2-
【天皇杯得点】
◇ボウリング
【少年男子】
ム）④愛媛35
【少年女子】
ム）②愛媛34
◇アーチェリ
【少年男子】
愛媛
【少年女子】
愛媛
【成年女子】
愛媛